

SAToyAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) 第11回定例会合の横浜開催が決定しました

2027年に開催が予定されている「SAToyAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI)」の第11回定例会合の開催地に横浜が選ばれました。

IPSIは、自然共生社会の実現を目指す国際パートナーシップです。国・地方政府や市民団体、研究機関、国際機関など、世界の多様な団体が参加し、概ね2年ごとに定例会合を開催しています。

横浜市は、生物多様性の取組や循環型社会の実現などの環境施策を推し進めています。

本会議では、横浜を舞台に、世界の多様なステークホルダーが生物多様性について議論を深め、世界に向けて発信します。

■ SAToyAMA イニシアティブ国際パートナーシップ第11回定例会合 (IPSI-11) 概要

- 主催機関：SAToyAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) 事務局 (国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS))、環境省、横浜市
- 開催時期：2027年のうち3日程度 (時期未定)
- 参加者：国内外の国・地方政府や市民団体、研究機関、国際機関などの実務者 約200名 (想定)

■ 山中 竹春 横浜市長 コメント

このたび、IPSI 第11回定例会合の横浜開催が決定したことを大変光栄に思います。

本会合と、同時期に開催する「横浜グリーンエキスポ」との相乗効果により、環境と共生した持続可能な社会の実現に向けて、横浜から世界へ新たな価値や方向性を一層力強く示していけるよう、尽力してまいります。

横浜市は、開催都市として万全の準備を進め、IPSI 第11回定例会合の成功と、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

【参考】SAToyAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (International Partnership for the Satoyama Initiative: IPSI) について

自然共生社会の実現を目指し、里山・里海などの社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ (SEPLS) の保全と持続可能な利用を促進する国際的枠組みです。日本の環境省と国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) が2007年に提唱し、2010年10月の生物多様性条約 COP10で IPSI が発足しました。

現在300以上の団体が参加しており、知識共有や協力活動を通じて持続可能な地域づくりを支えています。IPSI事務局はUNU-IASが務め、会議運営や連携強化、情報発信などを行い、パートナーシップ全体を支える役割を果たしています。

お問合せ先

(生物多様性及び会議の内容に関すること)

みどり環境局戦略企画課長 関根 伸昭 Tel 045-671-2686

(国際会議の誘致に関すること)

にぎわいスポーツ文化局観光MICE振興課 担当課長 板谷 俊史 Tel 045-671-4262



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



プレスリリース・2026年3月26日、東京

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) 第11回定例会合の横浜開催が決定しました

2027年、IPSI第11回定例会合 (IPSI-11) を横浜にて開催します。本会合は、IPSI事務局 (国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS))、環境省、横浜市との共催にて開催予定です。詳細は決定次第、[UNU-IAS](#)、[IPSI](#)のウェブサイトに掲載します。

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI)

自然共生社会の実現を目指し、里山・里海などの社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ (SEPLS) の保全と持続可能な利用を促進する国際的枠組みです。日本の環境省と国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) が2007年に提唱し、2010年10月の生物多様性条約COP10でIPSIが発足しました。現在300以上の団体が参加しており、知識共有や協力活動を通じて持続可能な地域づくりを支えています。IPSI事務局はUNU-IASが務め、会議運営や連携強化、情報発信などを行い、パートナーシップ全体を支える役割を果たしています。IPSIではメンバー間で知識や経験を共有するため、様々な会合やイベントを開催しています。IPSI定例会合は、IPSIの活動の検討や制度的な事項に関する決定を行う総会と普及啓発を目的とした公開フォーラムからなるIPSIの主要な会合です。

第10回定例会合 (IPSI-10) の結果

2026年3月3～5日、第10回定例会合 (IPSI-10) がエクアドル共和国、リオバンバにて開催されました。IPSIの実行可能な実施計画 (AIP) が採択され、IPSI運営委員会のメンバーの改選、承認などが行われました。IPSI-10の結果概要は[こちら](#)をご覧ください (英語)。

取材内容

UNU-IAS の研究者、IPSI メンバーより、以下のトピックについての情報やコメントの提供が可能です。

- 先住民の知見とコミュニティ主導の生物多様性保全に向けた解決策
- 昆明・モントリオール生物多様性枠組 (GBF) の実施
- 社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ (SEPLS)、生物多様性喪失、気候変動と土地の劣化
- ビジネス、生物多様性、ネイチャーポジティブアプローチ

問い合わせ先

日本語でのお問い合わせ

丹野智世、コミュニケーションズアソシエイト (tanno@unu.edu)

英語、フランス語でのお問い合わせ

ルクロ・アン、メディア&エンゲージメントアソシエイト (anne.lecroq@unu.edu)



環境省報道発表

令和8年3月26日（木）

SAToyAMA イニシアティブ国際パートナーシップ 第10回定例会合（IPSI-10）の結果について

1. 2026年3月3日（火）から同年3月5日（木）まで、エクアドル共和国・リオバンバにおいて、SAToyAMA イニシアティブ国際パートナーシップ（IPSI）の第10回定例会合（IPSI-10）が開催されました。
2. 本会合では、IPSIの実行可能な実施計画（AIP：Actionable Implementation Plan）の採択等が行われました。詳細については添付資料を御参照ください。
3. 次回定例会合（IPSI-11）は、2027年に横浜市で開催される予定です。

【添付資料】

- ・ SAToyAMA イニシアティブ国際パートナーシップ第10回定例会合（IPSI-10）の結果概要

以上

内容についての問合せ先
環境省自然環境局自然環境計画課
生物多様性戦略推進室
代 表：03-3581-3351
直 通：03-5521-8275
室 長 鈴木 渉
室長補佐 河合 秀樹

(添付資料)

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ第 10 回定例会合 (IPSI-10) の結果概要

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ第 10 回定例会合 (IPSI-10) が、2026 年 3 月 3 日 (火) から同年 3 月 5 日 (木) までの日程で、エクアドル共和国・リオバンバにおいて開催され、我が国からも、松澤裕環境省参与を始めとした関係者が参加しました。本会合では、IPSI の実行可能な実施計画 (AIP) について議論及び採択が行われたほか、IPSI 運営委員会メンバーの改選・承認等が行われました。

また、次回定例会合 (IPSI-11) は、2027 年に横浜市で開催されることが発表されました。

2. 会議の概要

(1) 会合の名称

日本語：SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ第 10 回定例会合

英語：The Tenth Global Conference of the International Partnership for the Satoyama Initiative (IPSI-10)

(2) 開催期間

2026 年 3 月 3 日 (火) ~ 5 日 (木)

(3) 会場

チンボラゾ高等工科大学 (Escuela Superior Politécnica de Chimborazo (ESPOCH)) (エクアドル共和国・リオバンバ)

(4) 実施主体 (主催)

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) 事務局 (国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS))、環境省、チンボラゾ高等工科大学 (Escuela Superior Politécnica de Chimborazo (ESPOCH))、及びジョージア大学 (University of Georgia (UGA))

(5) 参加者・参加形式

ハイブリッド形式により IPSI 参加団体等約 200 名が参加。

3. 主な議題の概要

(1) 議長の選出

総会議長には、武内和彦氏 (地球環境戦略研究機関理事長、国連大学サステイナビリティ高等研究所客員教授、東京大学未来ビジョン研究センター特任教授) が選出されました。

(2) 実行可能な実施計画 (AIP) の採択

「実行可能な実施計画 (AIP: Actionable Implementation Plan)」は、SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ第 9 回定例会合 (IPSI-9) において採択された IPSI 行動計画 2023-2030 の効果的な実施に向

け、IPSI 参加団体が具体的に実施すべき内容等を定めるもので、IPSI 行動計画の5つの戦略目標毎に検討が進められてきました。なお、IPSI 行動計画の5つの戦略目標のうち、「知識の共同生産・管理及び活用」及び「制度枠組及び能力開発」については IPSI 事務局が、「エリアベースの保全措置」については国際自然保護連合（IUCN）が、「知識の共同生産・管理及び活用」についてはアジア開発銀行（ADB）が、持続可能なバリューチェーンの開発についてはコンサベーション・インターナショナル（CI）が、それぞれ議論をリードしました。本会合では、当該計画に含めるべき要素や戦略目標毎の整理についてプレナリーで議論が行われ、最終的に AIP が採択されました。また、ブレイクアウトセッションにおいては、AIP の採択を受け、現場の状況を踏まえた AIP の実践について活発な議論が行われました。なお、採択された AIP については、「IPSI ホームページ <https://satoyamainitiative.org/ja/>」において公表される予定です。

（3） IPSI 運営委員会メンバーの改選・承認

IPSI の運営方針等の意思決定を担う IPSI 運営委員会について、メンバーの改選・承認が行われました。IPSI メンバーである「国立東華大学（National Dong-Hwa University：台湾）」、「社会政策エコロジー研究所（SPERI：ベトナム）」、「トリブーバン大学アムリットキャンパス（ネパール）」、「ビクーニャとラクダと環境（VICAM：アルゼンチン）」、「モンテスペルトリ古代穀物協会（イタリア）」が新たに運営委員会メンバーとなりました。それに伴い、「カトマンズ森林大学」、「カンボジア王国環境省」、「コンサベーション・インターナショナル（CI）」、「ネイチャー・アンド・ライブリフッド」が運営委員会から退任しました。

（4） SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ第11回定例会合（IPSI-11）開催地の発表

次回定例会合（IPSI-11）が、2027年（予定）に横浜市で開催されることが発表されました。横浜市から、横浜市内における里山の持続可能な利用及び保全の取組、2027年に開催される「GREEN×EXPO 2027」の紹介等が行われました。

（5） パブリックフォーラムの開催

日本時間3月4日（水）23時から3月5日（木）2時にかけて、「山岳景観の保全とエコツーリズム」をテーマとするパブリックフォーラムが開催されました。この会合は、オンライン及び対面のハイブリッド形式で開催され、世界各地の山岳地域における自然資源の状況や、保全と持続可能な利用に関する現場の取組等についての紹介及び議論が行われました。

【参考】

■ SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (International Partnership for the Satoyama Initiative: IPSI)

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) は、SATOYAMA イニシアティブの活動を促進するため、2010年に愛知県名古屋市において開催された生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) を契機として、国・地方政府機関、研究機関、国際機関、NGO、民間企業等、多様な主体の参加を得て発足した国際パートナーシップです。2026年2月末現在、80ヶ国・地域の計348団体が参加しています。

【IPSI 事務局ウェブサイト】 : <http://satoyama-initiative.org/ja/>

以 上